

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
17

振興協議会だより

【発行日】平成28年2月25日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600

世界ジオパークがユネスコの正式事業に！

2015年11月17日、フランスのユネスコ本部で開催された第38回ユネスコ総会において、世界ジオパークネットワークの活動が、正式に「国際地質科学ジオパーク計画」として事業化されました。これによって世界ジオパークは、世界文化遺産・世界自然遺産・エコパークと肩を並べるものとなりました。

2015年10月末現在、33カ国120カ所が世界ジオパークに認定されていて、国内では糸魚川ジオパークを含め8地域が世界ジオパークに認定されています。

正式事業化による効果は、正直まだよくわかりません。けれども、世界的に認知度が上がることは確かです。世界中の世界遺産を巡る旅行者が、世界ジオパークも巡るような動きが出てくる可能性が期待されます。

そして、国内でもそれが期待され、ジオパークの理念である「地質遺産の保護やそれらを資源とした学習や科学振興、観光事業に活用して持続可能な地域社会の実現・活性化」を図ることが求められることになります。

つまり、日本ジオパークである「苗場山麓ジオパーク」もユネスコの正式事業の一端を担うこととなり、期待も大きくなることから日本ジオパークとしても魅力をさらに磨き、ブランド化させていく必要があります。

そのためには、郷土学習の一層の充実、ジオサイトの整備、観光客の受け入れ体制の確立、多言語対応など様々な取り組みをすることで、地域が一丸となって盛り上がり、受け入れることができる地域づくりが必要となってきます。

ようこそ先輩！

信越国境にある上郷小学校では、キャリア教育の一環で「ようこそ先輩」授業を去る12月10日に開催しました。第1回は、統合前の大井平小学校卒業生の上村憲司町長を講師に招きました。町長は津南の代名詞のひとつである「豪雪」をテーマに、雪を生かした小水力発電や雪冷熱データセンター誘致などのエネルギー利用や豊富に湧き出る水、そして雪下ニンジンやアスパラなどの自然の恵み、さらには約8,000年前から多雪化が始まり、その多雪環境下で約5,000年前に火焰型土器のような世界に類を見ない美術を生んだ土地が津南であることを伝えました。そのうえで、素晴らしい土器や石器を児童とともに触れながら原始美術を生んだ地に生まれ育っている現実と、津南町はとてつもない可能性を秘めている土地であることを優しい口調で児童に話されました。

町長の笑顔のまなざしは、自然と歴史文化を大切に持続ある地域を創り上げる未来を担う児童に優しく向けられていました。



みんな火焰型土器に興味津々

ジオサイトマップ英訳版完成

ジオサイトマップの英訳版が完成しました。既存の日本語版をベースに、認定ガイドのクリフト・ロバートさんに翻訳していただいた外国人旅行者向けのマップです。

今年の7月には、ジオパーク新潟国際フォーラムも開催され、苗場山麓GPへのエクスカッション（訪れた場所でガイドの解説を聞きながら、参加者も意見を交わし、地域の自然や歴史文化などを学ぶ体験型の見学会）も計画されていて、各国からの来訪者も期待されます。また、この英訳版マップはガイドのテキストにも活用していきたいと考えています。



ジオサイトマップをご希望の方は、栄村・津南町の観光協会、農と縄文の体験実習館なじもんまで。

潜在的資源をどのように保全・保護するのか？

苗場山麓ジオパークに点在する潜在資源のうち、谷川岳国立公園などに含まれる範囲は国立公園法、小赤沢のユモトマユミは文化財保護法（天然記念物）、沖ノ原遺跡は文化財保護法（埋蔵文化財）で保護されています。それ以外のジオサイトをどのように保全・保護することができるのかという論点で、環境庁・森林監督署・漁協組合、そして推進室を含めた4者協議を行いました。保護という課題に関しては、既に法規制が掛っているものだけであり、それ以外は栄村の自然環境保護条例でどこまで対応できるかという課題提示で会を閉じました。

今後は、“苗場山麓ジオパーク保護憲章”制定を目指し、学習会を開き、コンセンサスを得ることから始めるべきであろうと考えます。これはスローガンであり、このスローガンを受け、地域住民がジオサイトの希少性や学術的価値、そして活用の本質を理解した上で、栄村の条例に学び、津南町でも自然環境保護条例を制定する必要があります。

地域の宝を残す意味と意義を熟知して、地域住民が条例制定を誇りに思う時まで、じっくりと時間を掛けて議論していきたいと考えています。



真中のピークが佐武流山（苗場山9合目より）
白神山地に次ぐブナ原生林が広がると評価される

栄村復興祈念施設を建設中、4月末オープン予定



長野県北部地震で崩落した中条川流域

平成23（2011）年3月12日、東日本大震災の翌日、苗場山麓でもマグニチュード6.7、最大震度6の大地震が発生しました。もうすぐ発生から5年が経とうとしている今、復旧・復興事業が続いていますが、記憶からは薄れつつあるのではないのでしょうか。

現在、この災害を風化させず、次世代へと語り継いでいくための施設整備が栄村の森宮野原駅前に建設中の複合施設内で進行中です。

この施設では、地震発生当時の様子、被害状況を知ることができ、今後同じような災害が発生した際の対応や防災計画などを確認、学習できる予定です。また、ジオパークにおける防災学習の拠点としての位置づけが期待され、苗場山麓ジオパークの魅力を紹介するコーナーも作られます。ジオパークの紹介だけでなく、大地の活動から地震などの災害が起きる仕組みや災害の歴史も紹介する予定となっています。ジオ（地球・大地）の上で暮らす私たちは、ジオやエコ（自然）が常に活動・変化していることを認識し、過去の災害の教訓を活かし防災に努めることを心がけましょう。

ゆざわジオパークにて雪国をテーマにしたフォーラムが行われました

平成28年2月12日～13日に秋田県ゆざわジオパーク（以後G Pと略す）で開催された「雪国ジオパークフォーラム」に協議会事務局から2名が参加しました。「冬のジオパークの活用・積雪期のジオツーリズムを考える」をテーマに、北海道・東北など雪にまつわるジオパーク関係者100名余りが参加しました。

講演では、アンケート調査から導き出された、体験型の楽しく学ぶジオツーリズムにニーズがあり、お客様の要望に合わせたジオパークの楽しみ方を考え提案する必要性が述べられました。三笠G P、白滝G P、ゆざわG P、苗場山麓G Pの事例発表後、参加者全員でお客様の世代などに合わせたツアー作りのグループワーキングが実施されました。

2日目は2班に分かれ、ガイドによるジオツアーが開催され、普段行っているガイド方法について意見交換をしながらのツアーとなりました。

雪深いものの、地熱を利用した様々な活動を見学しました。地熱発電の仕組み、地熱を利用した名産品の熱処理や乾燥・フリーズドライ製品の作成、ビニールハウスによるトマト栽培などが行われていました。また、雪国に不可欠な“かんじき”も、カルデラ地形に分布する高温の温泉を利用して原材を曲げたり、樹皮をふやかし繊維を取り出し固定部分や結ぶための紐や縄を作るなどの昔からの知恵の紹介もありました。化石が取れる地層や水はけの良い扇状地のためにサクランボやセリ栽培が盛んで、ジオと民俗、食との繋がりの話を聞きながらのツアーとなりました。

今後も雪国ジオパークフォーラムは継続される予定で、将来的には苗場山麓ジオパークを会場に開催したいと考えています。



地熱を利用したカンジキの製法について話すガイドさん

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

見倉の風穴・トチノキの原生林



所在地 津南町見倉

種別 自然

見倉には2つの風穴があります。集落近くの風穴は、集落南側の小丘の斜面下部（標高710m）にあって、幅50mほどの範囲に広がっています。以前はその中央に三角小屋が建てられ、漬け物や野菜の貯蔵に利用されていました。

もう1つは、見倉集落の南方、金城山西側の滑落崖下の裾（標高750m）に位置します。冷気の吹き出し口周辺の気温は、一年を通じて1～3℃程度で、夏季でも寒いと感じるくらいの冷風が出てきます。その冷風のために、現在の周辺植生では確認することのできない、新潟県内で唯一のエゾスグリ（ユキノシタ科の低木）やシウリザクラなどの寒冷地適応の植物が生育しています。すなわち、氷河期に生育していた植物が残存している貴重なスポットなのです。周囲は、トチノキを主とした巨木林で、面積はおよそ10ha、直径が1～2m、高さ20mほどのトチノキが多数生育し、カツラ、アズサ、サワグルミ、ウダイカンバなどの高木が混生しています。直径2m以上のトチノキも点在し、新潟県内最大と言われる巨木（直径約2.7m）を見ることができます。林床にはリョウメンシダ、オシダなど日陰で湿った所を好むシダが繁茂し、一帯は原始的で優れた自然環境が残る貴重な場所となっています。

切明の川原（温泉湧出）



所在地 栄村切明

種別 地質

切明の川原を掘ると温泉が湧き出てきます。この温泉は、カルシウム・ナトリウム－塩化物・硫酸塩泉でおよそ56℃です。

また、川原には、30メートルほどもある鳥甲溶岩の岩塊（安山岩）が点在しています。これらは、弘化4年（1847）の善光寺地震での山崩れの際に落石し、川をせき止めた跡と考えられています。

鈴木牧之は、文政11年（1828）に当地を訪れ、「湯本」として、その様子を『秋山記行』描いています。その際牧之は、切明の温泉は寛政6年（1794）に開かれたのだと聞きます。中津川左岸には温泉宿があり、その裏山には薬師様を祀った薬王閣を描いています。現在、その場所は、切明の発電所と導水管となっていて、中津川右岸に温泉宿が建ち、薬王閣も小さな祠として残されています。

牧之が訪れてから19年後、弘化4年（1847）に起きた善光寺地震の際に、山崩れにより川が土砂でせき止められ、湖となり、温泉宿も湖底に沈んだという記録があります。

翌、嘉永元年（1848）、ここを訪れた佐久間象山が工事を指導し、土砂を切り開いて排水したので、地名が湯本から切明になったと言われている（沓野日記）。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

ユネスコジオパーク誕生記念・全国研修会 2016年1月23日～25日

ジオパークがユネスコの正式事業になったお祝いと、ジオパークの今後の姿を考える会議が、白山手取川ジオパークで開催されました。開会式の後、皮切りに「UNESCO Global Geoparks (ユネスコ グローバル ジオパークス)」をテーマに、Patrick McKeever 氏(パトリック・マッキーバー 註1)が講演されました。骨子は、「ジオ(地球・大地)があって、生物の多様性が育まれる。Sustainable Development(持続可能な発展)を図りましょう」でした。マッキーバー氏はじめ、他2人の講演、5人によるディスカッションの中で頻繁に発せられた言葉に、「持続可能な発展」があります。少子高齢化、限界集落などは、日本のジオパーク認定地域(申請中の地域も含む)に、ほぼ共通する重要かつ緊急な課題です。地質・地形といったジオをはじめ、生態及び民俗・文化・歴史の遺産を保全・継承するには、このジオパークの理念は最適だと思います。

農とジオパークを両輪に据え、町づくりを展開する道筋を立て、事業の見直し、企画をすれば、活力ある自治体・ジオパークが創出されるのではないのでしょうか。(紙面の都合で全国研修会の内容は割愛しました)

註1: ユネスコ地球科学ジオハザード減災セクションチーフ、国際地質科学ジオパーク計画事務局長、今年7月27日新潟での国際フォーラムにてご講演いただく予定です。



ディスカッションの様子

道の駅信越さかえに火焰型土器モニュメント完成！



右端が発見者の石沢巖さん

フランス芸術を学んで帰国した岡本太郎は「なんだ、コレは！」と叫びました。その相手こそ東京国立博物館に展示されていた「火焰型土器」でした。太郎は著書『縄文土器論』に「縄文土器に荒々しい、不協和な形態、紋様に心構えなしにふれると、誰でもドキッとする。なかなか爛熟した中期の土器の凄さまじさは言語を絶するのである」と記しています。太郎は火焰型土器に感動し、その後の太郎作品に大きな影響力をもたらしました。

その火焰型土器のひとつが栄村長瀬新田の畑で昭和33年頃発見され、発見者の石沢巖さん宅で静かに保管されてきました。この貴重な発見を、つい最近まで考古学者は知らずにきました。この火焰型土器は、信濃川

流域を中核地帯とした約100km圏内で、約5,000年前に造形されたと考えられてきました。石沢さんの発見は、その分布をさらに南に広げたのです。

この火焰型土器は、日本の縄文文化を代表する縄文土器であり、貴重なものです。その“火焰のクニ”の広がりを出す目的で、道の駅“信越さかえ”に火焰型土器モニュメントがお目見えしました。自然と共生した縄文人の先史芸術の里であることを知らしめるモニュメントです。ぜひ立ち寄ってみてください。

苗場山麓ジオパークガイド認定検定(初級)

来月3月26日(土)に、第2回苗場山麓ジオパークガイド認定検定(初級)を実施します。

昨年行われた第1回検定(初級)の合格者38人は、すでに認定ガイドとして活躍しています。今年の7月には、ジオパーク新潟国際フォーラムが開催され、苗場山麓にも団体ツアーなどが計画されていて、さらなる活躍が期待されています。

また、実際ガイドはできるか分からないけれど、生涯学習の一環として苗場山麓についてもっと知りたい、学んでみたいという方も大歓迎です。検定料は無料、どなたでも参加可能ですので、興味のある方はぜひお申込みください。

苗場山麓ジオパークガイド認定検定(初級)

実施日時: 平成28年3月26日(土) 13:30～14:30 (13:00開場)

会場: 農と縄文の体験実習館 なじもん

申込締切: 3月10日(木) 17:00まで ※郵送の場合は3月10日当日消印有効

申込方法: 所定の用紙に必要事項をご記入の上、ファックス・持参・郵送にて申込みください。

所定用紙は、栄村・津南町役場、なじもん、津南町文化センターなどに配置してあります。

また、苗場山麓ジオパークホームページからダウンロードすることもできます。

申込先: 苗場山麓ジオパーク推進室 電話 025-765-1600 ファックス 025-765-5511 (農と縄文の体験実習館なじもん内)

検定料: 無料

お問合せは、上記ジオパーク推進室までお電話ください。